

氏名：平野 稔也(青年海外協力隊)

滞在国：タンザニア

職種：理学療法士

タイトル：ザンジバル日記(Habari za Zanzibar)16

友達紹介

彼はいつもお調子者。それが彼そのものを表しているようです。彼の名前は「スレッシュ」

彼の特技は走ること。サッカーの審判をしたり、陸上の選手をしたりと体を動かすことには長けている青年です。しかし、肝心の野球センスは・・・

そんな彼はいつも声を出すチームの中心的なムードメーカー！どんな場所に行っても物怖じしない声量には、感心しますが目立ちたいだけなのかもしれませんね。



最後のザンジバル大会 「ザンジバルと野球①」

今回はザンジバル島で年1回、開催している野球大会についてお伝えします。今回で2回目を迎えるザンジバル野球大会は、去年のチーム数4チームを遥かに上回る12チームが参加する大きな大会となりました。

主なチーム数の増加は各地域で野球を楽しむ若者が増えたこと、それと今回から女の子が参加するソフトボールが増えたことがチーム数の増加に繋がっています。ここまで、野球を楽しむタンザニア人が増えた背景には、日々野球の普及に取り組んでいる隊員やそれをサポートして下さる日本人支援者が数多くいます。特に、

現地で指導している協力隊の努力が大会を大きく盛り上げていると感じました。

さて、大会の状況はというと、ザンジバルは残念ながら2年連続2位(トップリーグ)となり、なかなか1位に輝くことができませんでした。しかし、下位のリーグでは始めたばかり村の子



供達が躍動!!特に、ザンジバル島のもう一つの島、ペンバ島チームとザンジバル島内の村のチームが初出場ながら好成績を納めていました。女性のソフトボールの方も大逆転勝利が起きるなど、皆がなかなか諦めずボールに食らいつき、次のベースまで一生懸命走る姿が印象的でした。

この大会のもう一つ素敵なのは、野球をするプレイヤーだけに視点を当てるだけでなくみんなで審判講習を行ったり、実際にタンザニア人に主審を任せ全てゲームメイクをしてもらったり、審判育成にも力を入れています。やはり、ここタンザニアでは野球そのものを知らずに始める子が多く、「何のためにボールを打って、走って点を取り合うのか」全くわからない子が多いのが事実です。そのため、変にルールを取り間違えてしまったり、野球本来の趣旨を受け取り間違えないようにすることへの配慮もされています。私も野球を遊び半分でしかやってこなかった立場として、とても勉強になることが多く、スポーツの奥深さをより感じます。



終わりに

残すところ、私のザンジバル日記も後 2 回。今まで、タンザニア・ザンジバルで起こった出来事や私個人が活動の中で感じたことをお伝えしてきました。逆に言えば、もう少しで 2 年の月日が流れたこととなります。カレンダーをみるともう 2 年ですが、起きた出来事の数や内容を思うと私は「長かった・・・」と感じます。今までの多くの出会いがあり、色々な人々にサポートしてもらったな・・・と感じることも多いです。結局はボランティアをしている側も感謝しかないのかもしれないですね。

残り 2 回の中では、今まで大きく関わってきた内容に絞ってお伝えして終わりにしようと考えています。キーワードとしては、“ザンジバルと野球”、“活動(ボランティア)について”になると思います。最後までよろしくお願い致します。

それではまた、次回。